

事務事業名	雲南市教育支援センター運営事業		所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育政策課
総合計画体系	政策名	〈IV〉ふるさとを学び育つまち〈教育・文化〉		所属G	キャリア教育政策G	課長名 川西泰恵
	施策名	〈26〉学校教育の充実		担当者名	星野翔	電話番号 0854-40-1074 (内線) 2274
	目的・対象	児童・生徒	意図	基礎基本(知・徳・体)の発達を促し、生き抜く力を身につける。		
	基本事業	〈078〉困難さを抱える児童生徒への支援の充実		予算科目	0:150:0:3 0:510:2:8	大事業名 教育推進事業 中事業名 おんせんキャンパス運営事業
目的・対象	児童・生徒	意図	個に応じた教育・支援を受ける。			

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
① 不登校児童 ② 不登校生徒	個々の実態に合わせた支援により、学校での生活や学びに意欲をもってもらう。最終的には学校復帰を目指す。
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(H27 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	様々な事情で学校を長期にわたって欠席している不登校又は不登校傾向にある児童・生徒に対し、個々の実態に合わせた支援を行い、社会性を身につけるための教育支援センターを運営する。 旧温泉小学校を活用し通称「おんせんキャンパス」として、認定NPOとの協働事業により実施している。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R3年度実績(R3年度に行った主な活動)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
おんせんキャンパス運営、アウトリーチ(別室登校支援、家庭訪問支援、ユースワーカー派遣)、ユースサポート(高校生年代)、家族サポート(保護者会) ※施設運営体制 受託者 5人 雲南市 1人(指導員:会計年度)	H27年度に認定NPOとの協働による取組を開始して以降、臨床心理士の配置、アウトリーチ活動、ICT利活用、高校生や保護者へのアプローチ、学習評価の在り方検討など、試行錯誤を続けている。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(計画)
登録者(小中学生)	人	18(3)	34(5)	39(1)	39(1)
登録者(高校生)					
登録者のうち学校復帰及び進路実現できた割合(翌年度当初)	%	70.0	75.0	65.0	65.0
ア					
イ					
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R3年度決算)		② コストの推移		単位	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(計画)
報酬	865千円	財源内訳	国庫支出金	千円	12,514	13,011	12,026	17,171
職員手当等	261千円		県支出金	千円				
需用費	1,413千円		地方債	千円				
役務費	179千円		その他	千円	19,306	18,089	21,238	19,773
委託料	29,642千円		一般財源	千円		27		
使用料及び賃借料	904千円	事業費計		千円	31,820	31,127	33,264	36,944

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	できるだけ多くの児童生徒への接点づくりに向け、別室登校支援に加えて家庭へのアウトリーチ事業、コロナ禍におけるオンラインを活用した支援体制の試行にも取り組んだ。学校復帰が全てでは無く、おんせんキャンパスも利用しながら、社会性を身につけることを重視し、着実に個々の児童生徒の成長に繋がっている。
② 事業実施するうえでの課題	学校に行きづらさを感じる児童生徒は年々増加する傾向にあり、不登校対応の在り方については、より総合的・専門的な観点から検討を行うとともに、さらに魅力ある学校づくりに取り組む必要もある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	学校・保護者との信頼関係はもとより、高校生年代へのアプローチを含めた関係機関とのネットワークも構築され、個別最適な学びの提供や事後対応としての取組は着実に進化を続けている。